

看護業務効率化先進事例収集・周知事業
看護業務の効率化 先進事例アワード2019

奨励賞

聖マリアンナ医科大学病院

**ナースハッピープロジェクト（NHP）
～音声入力による記録時間の削減～**

1. はじめに_施設概要

聖マリアンナ医科大学病院

- 所在地：神奈川県川崎市
- 病床数：1,208床
(高度急性期 1,115床)
特定機能病院
三次救急 (救命救急センター)
- 従業員数：2,440人
(看護職員数1,143人)
- 入院基本料看護配置：
特定機能病院一般病棟7対1入院基本料



川崎市立多摩病院



川崎市立多摩病院 376床
看護職 388人

横浜市西部病院



横浜市西部病院 450床
看護職 502人

東横病院



東横病院 124床
看護職 148人



2. 取り組みの背景と目的_取り組み前の課題

- 2022年度の新病院開院を控え、**看護職員の適切な人員配置や看護業務の役割委譲が課題**であった
- 単に業務を改善し医療の質を向上させ、患者の幸福を追求するだけでなく、職員の幸福の追求もあるべき姿と考え、「看護師がハッピーに、やりがいを感じられる職場を！」を目的に掲げ、**NHP (Nurse Happy Project)**として「**業務効率の徹底追及と無駄の排除**」を行うこととした

2017年度 理事長企画懇談会 

今後3年間の重点取り組み
『強い大学』に向けての基盤強化

イノベーション7

1. 病院リニューアルをきっかけとした病院改革の推進
2. ICT活用による医学教育環境の圧倒的な充実
3. 女性研究者の積極的登用をはじめとしたダイバーシティー拡充
4. **業務効率の徹底的追求と無駄の排除**
5. 財務体質のさらなる強化による利益体質への完全脱皮
6. 「働き方改革」を先取りした新しい人事制度の設計・導入
7. 中長期展望からの積極的な戦略的投資(人・モノ・金・情報)の敢行

“NHP : Nurse Happy Project”活動 

目的：看護師がハッピーに、
やりがいを感じられる職場を！

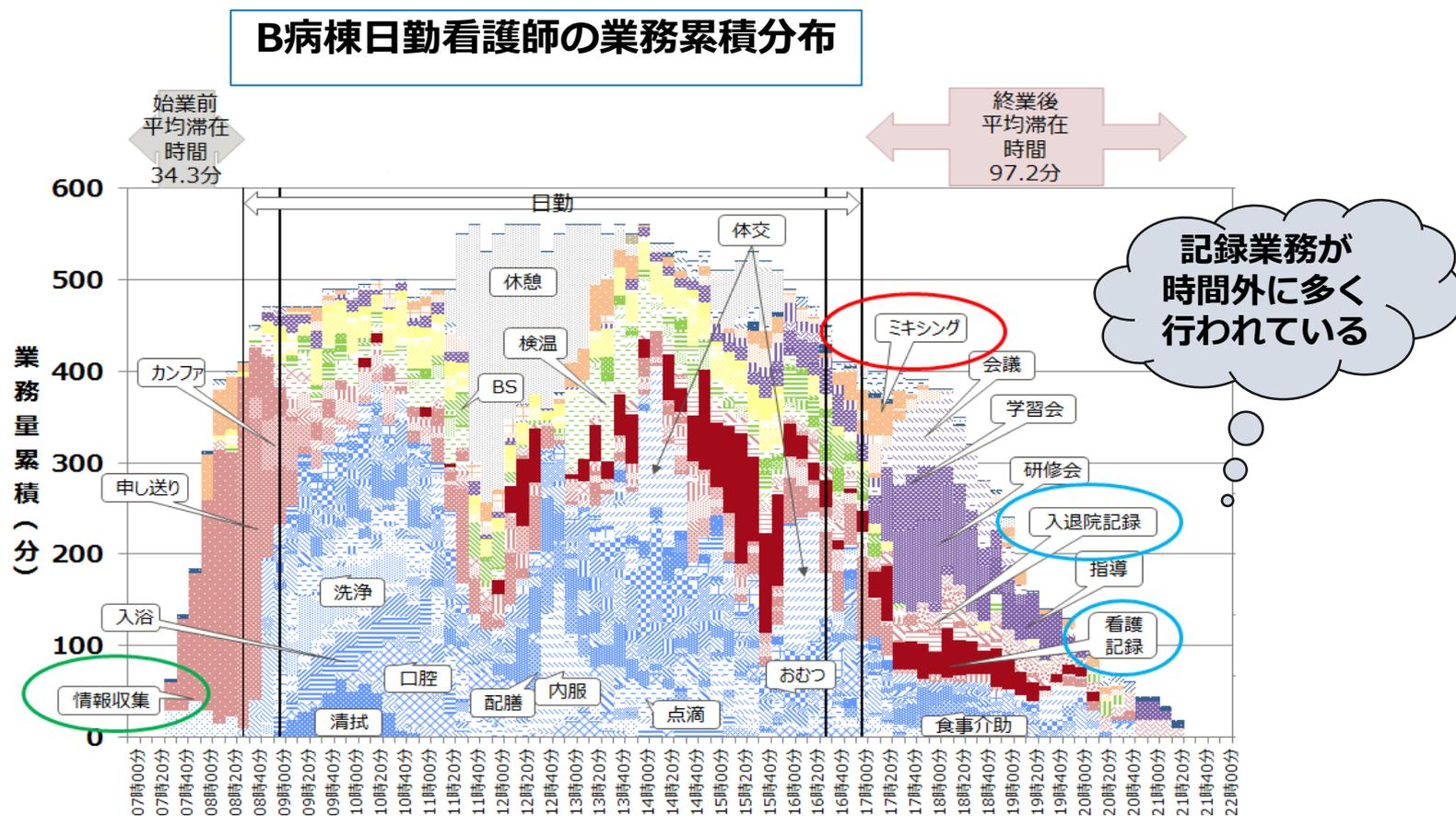
目的達成にむけ、“NHP : Nurse Happy Project”
として活動を開始！
下記4点を徹底的に追及します。

- 看護業務の効率化
- 看護業務の時間短縮
- 看護動線の適正化
- 看護業務の無駄の排除



2. 取り組みの背景と目的_課題分析 (1)

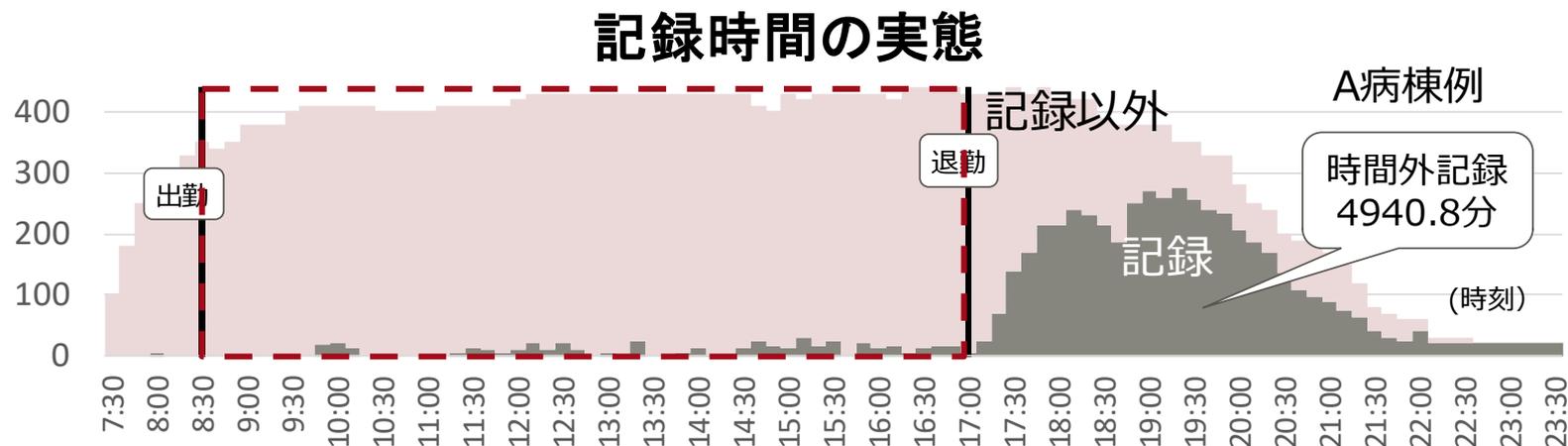
〈業務量調査〉業務の定量測定 (10分単位)



Copyright 2019. St. Marianna University School of Medicine

2. 取り組みの背景と目的_課題分析 (2)

〈業務量調査〉記録時間の抜粋



Copyright 2019. St. Marianna University School of Medicine

- 看護業務の効率化に向けては、**記録時間の削減が課題**であるということが職員の主観としてはあったが、**業務量調査の結果からも同様の**ことが明らかとなった
- AI・ICTの活用が看護記録業務を勤務時間内に移行するための手段の一つと考え、**音声入力に着目**した

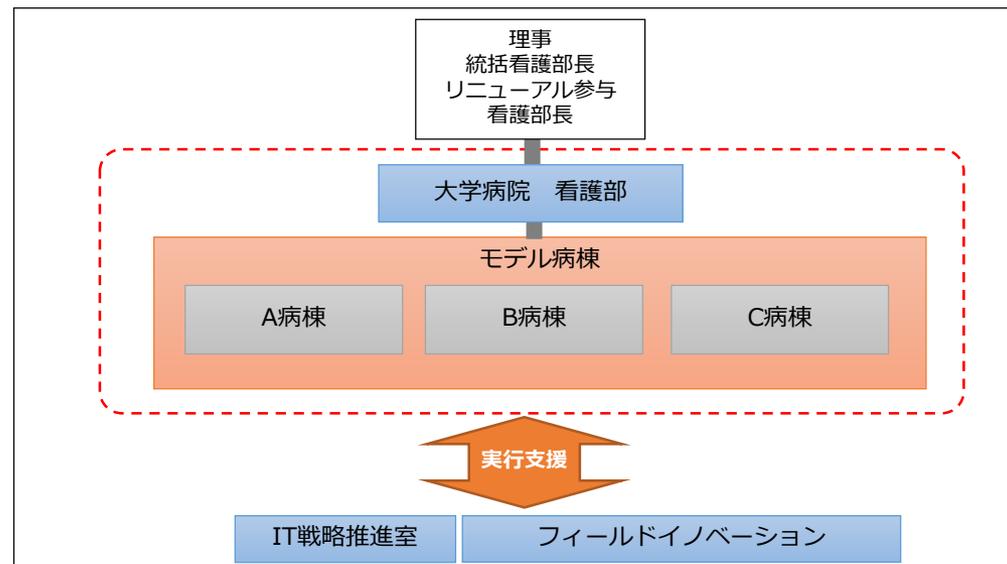
3. 取り組みの経緯__音声入力の導入方法

① 音声入力システムの導入病棟の選定

- ・ **AI・ICTに精通している師長が管理している病棟をモデル病棟として選定し、その後院内に広めていくこととした**

② 病棟での取り組み

- ・ 副師長を中心に、**スマートフォンの活用が得意な看護師**から広めていった
- ・ **音声入力への抵抗感や苦手意識のある看護師**に対しては、**OJT**を通して広めていった
- ・ **看護ケアの隙間時間を活用**するなど、工夫しながら記録を行うようにした



3. 取り組みの経緯_音声入力の方法

- ①スマートフォンに向かって記録したい内容を話しかけ音声入力をする
- ②スマートフォン上で入力内容を確認する
- ③端末の電子カルテの入力欄を選択する
- ④スマートフォンを電子カルテに向け、スマートフォンの画面を指で上方向にスワイプする
- ⑤電子カルテ上の入力欄にスマートフォンに入力した内容が送信（入力）される



【技術評価】 音声入力約270文字/分は、タイピング速度60文字/分の約4.5倍の速度向上

3. 取り組みの経緯__音声入力の活用方法

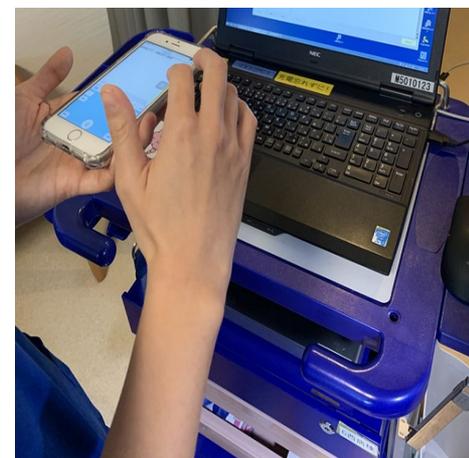
<音声入力のタイミング>

- トイレ付き添いの待ち時間
- エレベーターの待ち時間
- 病室間の移動時間
- ナースコール対応～訪室までの移動時間
- 転棟先から戻る際の移動時間



<活用例>

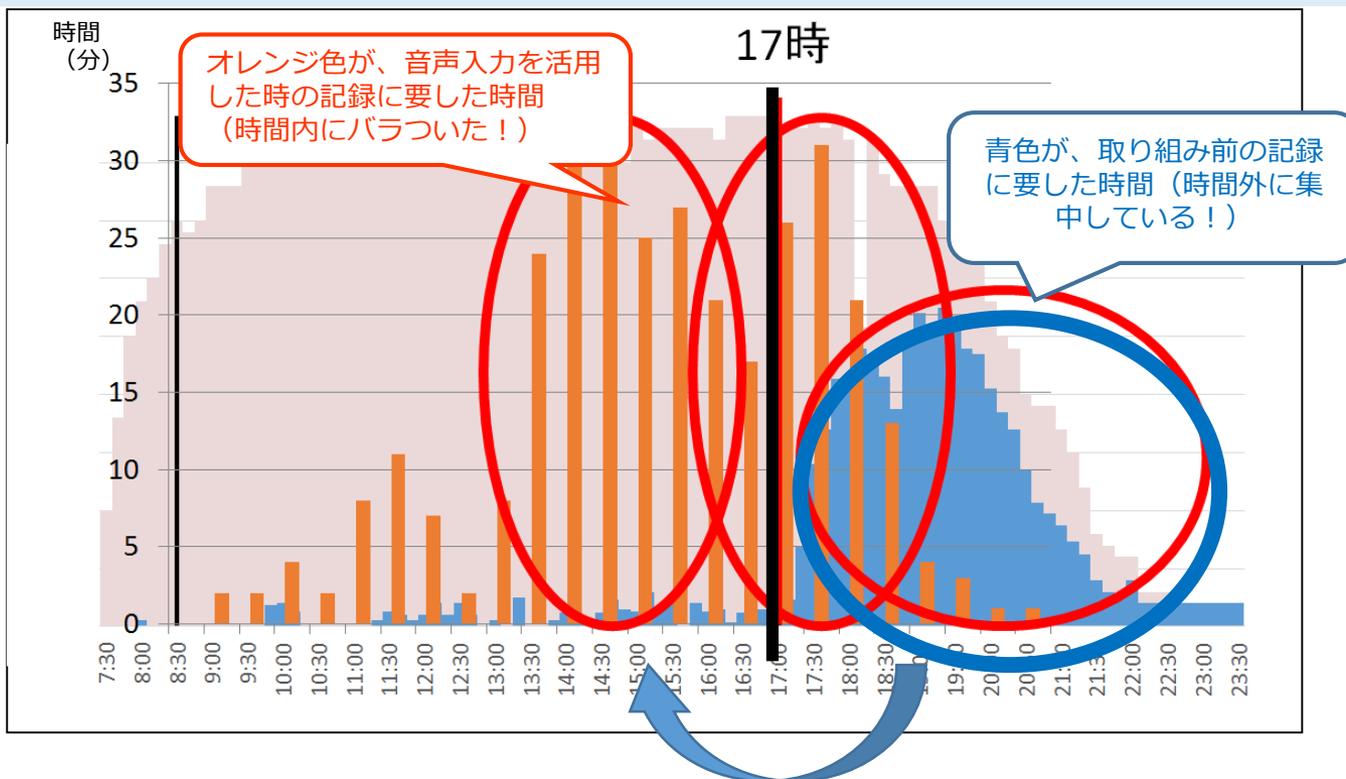
- ケア時に観察した皮膚の状態をその場で入力
- 食事介助の合間に摂取状況をその場で入力
- ストーマ交換の時に、ストーマサイズや装具の品番名をメモ代わりに入力
- 患者情報を収集する時、手書きメモ代わりに音声入力でメモを記載



4. 取り組みの効果・成果

音声入力後の記録時間（業務時間内・業務時間外）の変化

記録業務は業務時間内が約2倍に増加し、業務時間外が約30分減少した



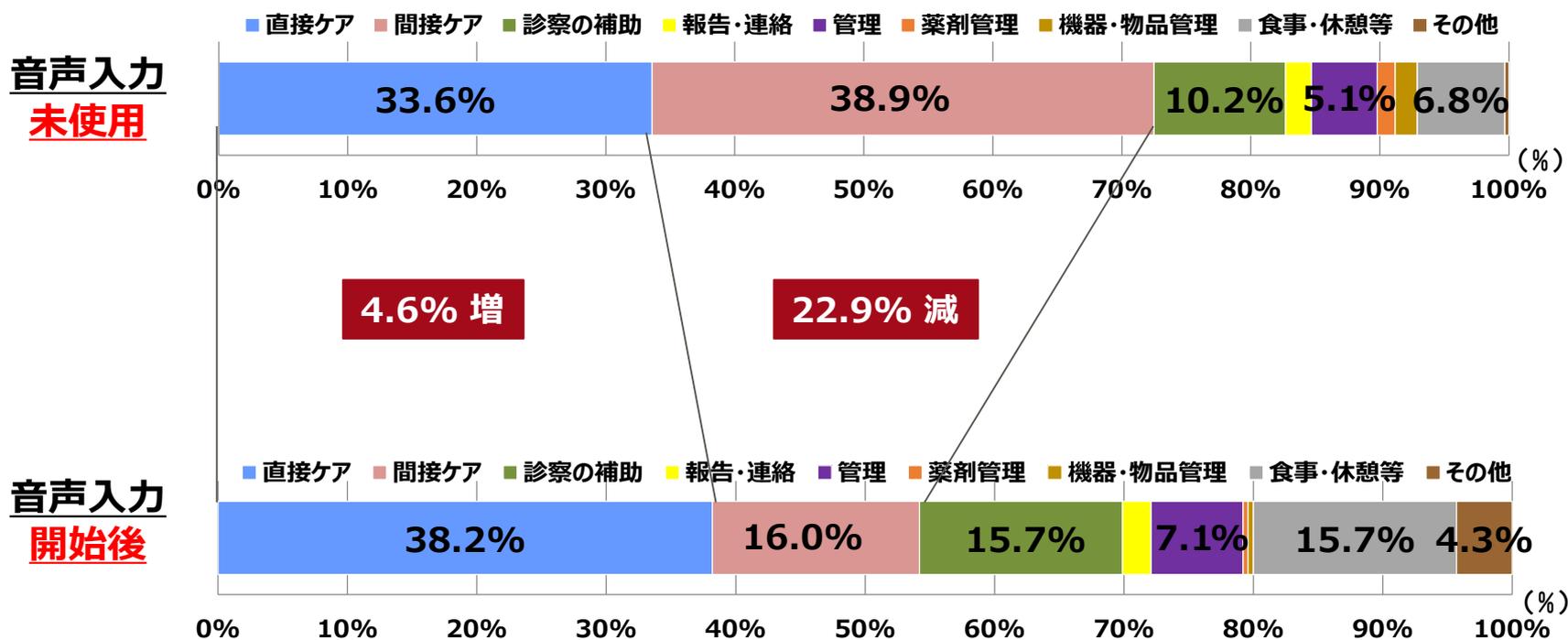
業務時間内の記録時間：平均21.5分 → 45.2分 (+23.7分)
業務時間外の記録時間：平均92.2分 → 41.2分 (-51.0分)

4. 取り組みの効果・成果

音声入力運用に伴う直接ケア時間への影響

直接ケアは4.6%増加し、間接ケアは22.9%減少した

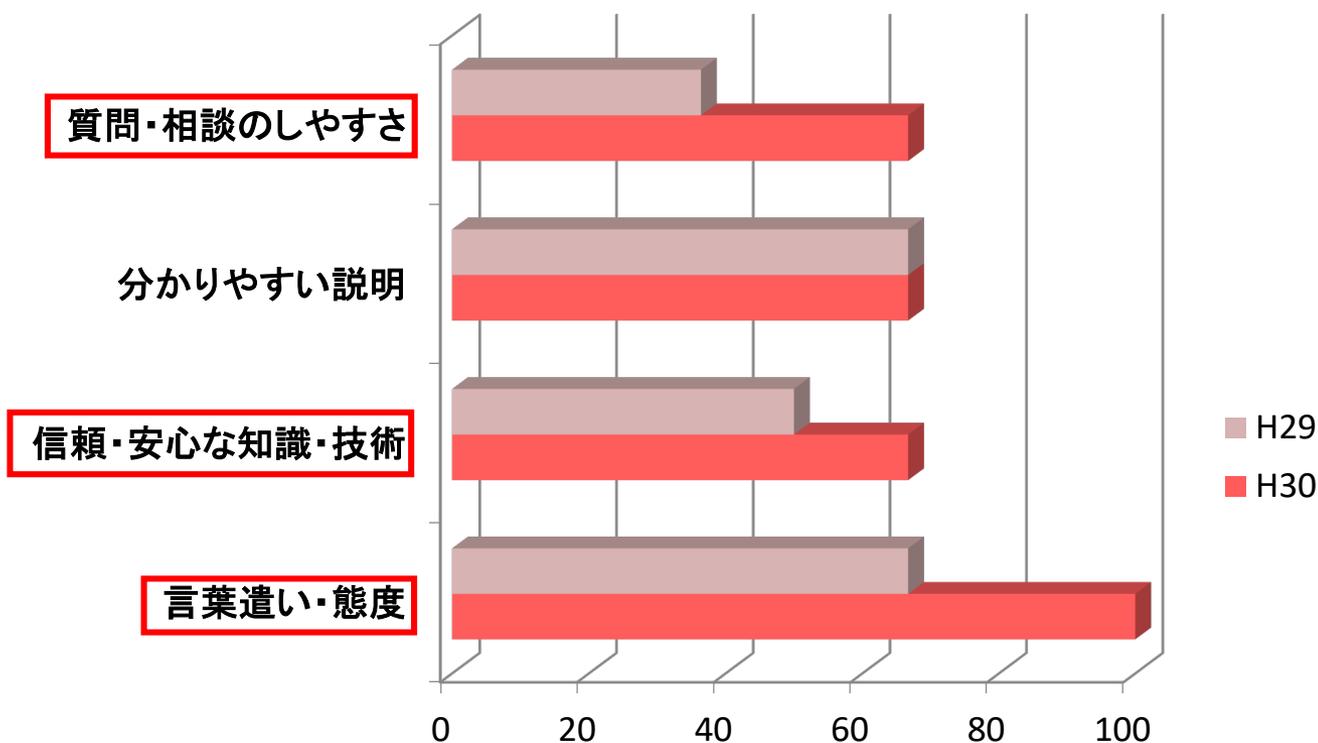
A病棟 全日 日勤業務量



4. 取り組みの効果・成果

患者満足度調査の結果

3項目（赤枠の項目）において、患者満足度が前年度と比較して向上した

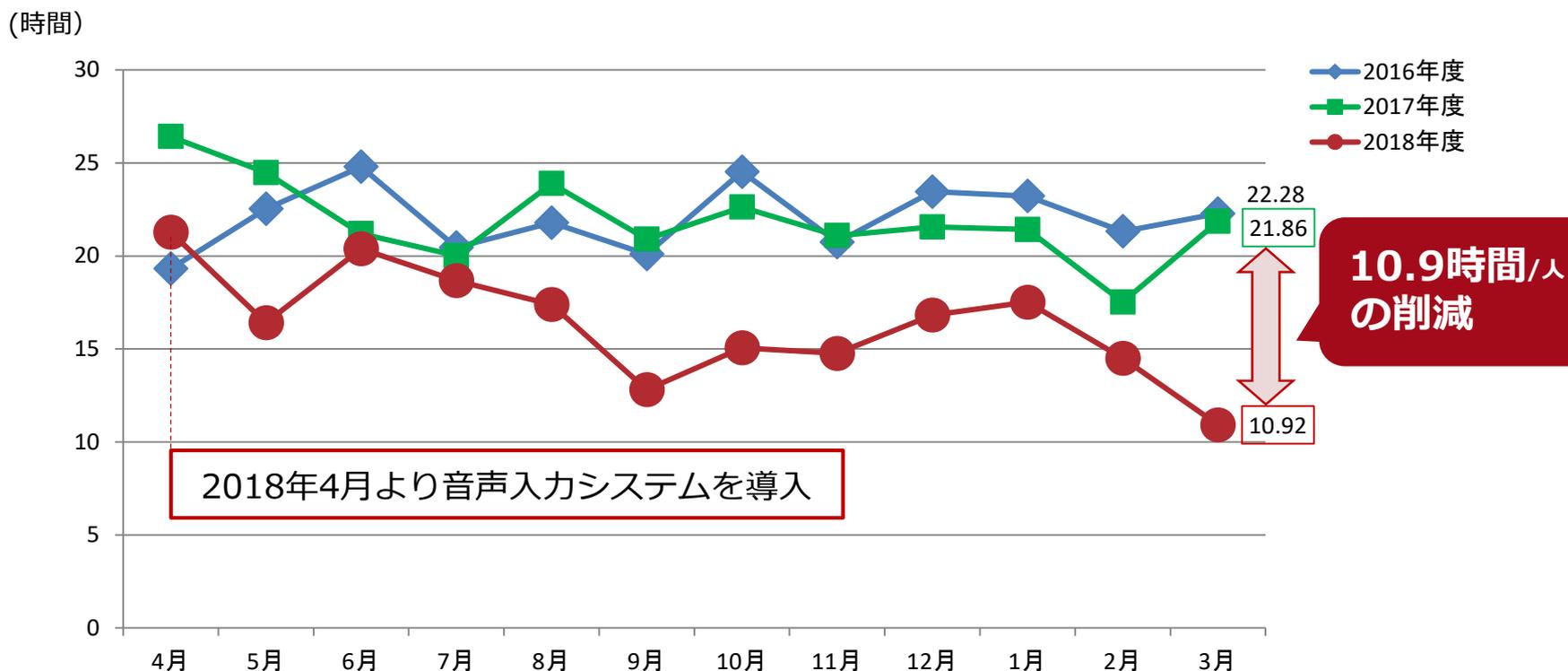


看護師の声 「ベッドサイドでケアを行う時間が増え、患者の抑制解除が可能になるなど患者ケアに時間を活用できるようになった」

4. 取り組みの効果・成果

1人当たりの超過勤務時間の変化

19年3月時点で**月当たり10.9時間/人**の超過勤務削減（前年同月比）



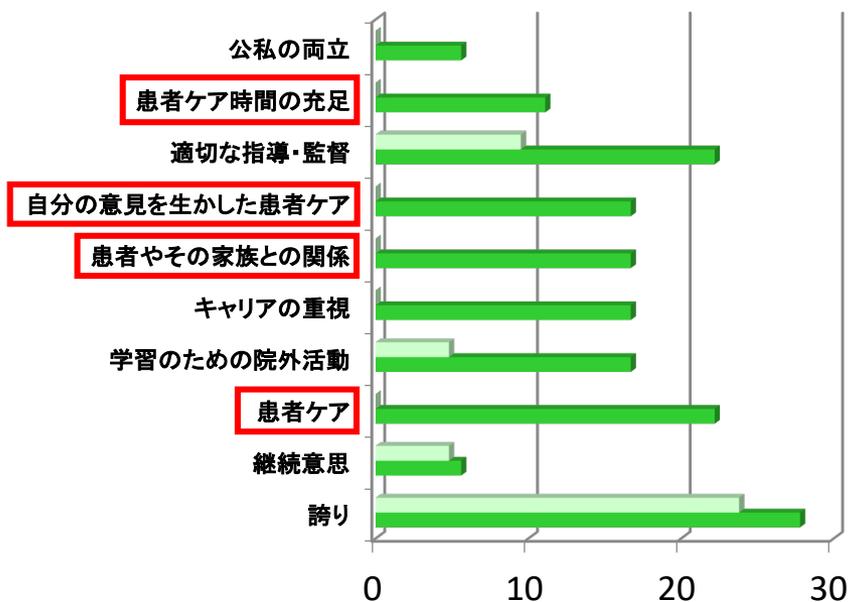
【超過勤務時間】 18年3月：月当たり平均**21.86時間**／人
 19年3月：月当たり平均**10.92時間**／人

4. 取り組みの効果・成果

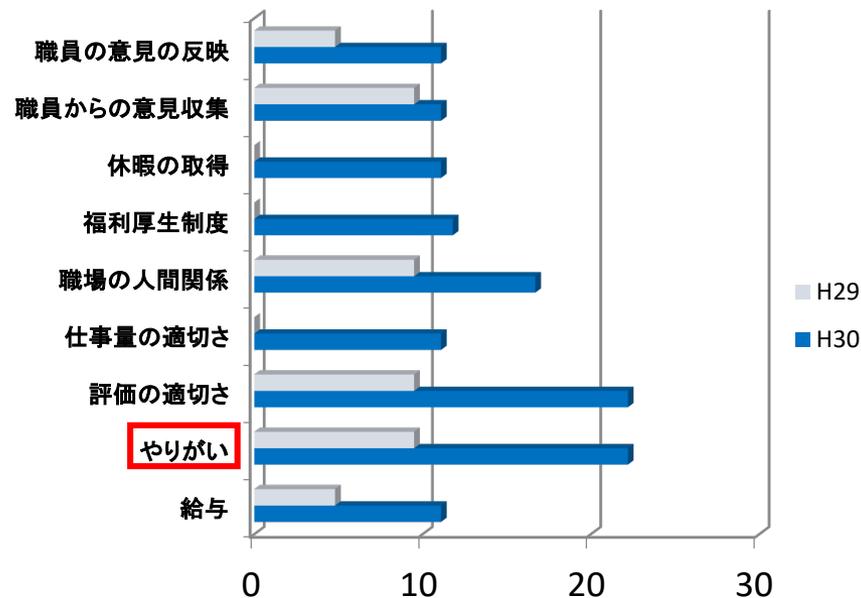
看護職員満足度調査の結果

取り組み前後で、特に看護実践に関する満足度が向上し
職員間の連携強化・やりがいにつながった

【自己実現に関する項目】



【職場に関する項目】



看護師の声 「リアルタイムな記録が可能になり、記録業務にかかる時間の削減や、記録漏れが減る等、より正確な記録が可能になった」

5. 今後の取り組み

1. データ蓄積・解析

2. ICT化の実現

- ① **音声入力システム**の全部署への導入
- ② **耳に装着し音声で操作する端末**の導入
- ③ 入退院に関連した**紙書類の撤廃**⇒**電子化**へ
- ④ **スマートフォン/チャット**の活用

3. 業務改善活動

- ① **タスクシフト/タスクシェアリング**
- ② **重複業務の削減!**
- ③ **不要な始業時間前出勤・残業の撲滅!**

